

すみだ平和祈念コンサート

アルミンク指揮／新日本フィル 「戦争レクイエム」



クリスティアン・アルミンク(指揮)
Christiran Arming (Conductor)

ジェラルディン・マクグリーヴァー(ソプラノ)
Geraldine McGreevy (Soprano)

ロバート・マーレイ(テノール)
Robert Murray (Tenor)

石野繁生(バリトン)
Shigeo Ishino (Baritone)

新日本フィルハーモニー交響楽団
New Japan Philharmonic (Orchestra)

栗友会合唱団
Ritsuyu-kai Choir (Chorus)
東京少年少女合唱隊
The Little Singers of Tokyo (Boys Chorus)



ブリテン／戦争レクイエム
Benjamin Britten / War Requiem op.66

I. 永遠の休息を
Requiem Aeternam

II. 怒りの日
Dies Irae

III. 奉献唱
Offertorium

IV. 聖なるかな
Sanctus

V. 神の小羊
Agnus Dei

VI. 我を解き放ち給え
Libera Me

もう二度と繰り返さない。



2008年3月9日(日) 3時開演(2時30分開場)
March 9, 2008 (Sun.) 15:00 start (14:30 open)

すみだトリフォニーホール

Sumida Triphony Hall

料金[全席指定]: S¥9,000 A¥7,000 B¥5,000 (トリフォニークラブ会員・墨田区在住在勤在学は特別割引有、同時入会申込可) ★好評発売中

ご予約・お問合せ: トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212 <http://www.triphony.com>

10TH ANNIVERSARY
SUMIDA
TRIPHONY
HALL

すみだ平和祈念コンサート

アルミンク指揮／新日本フィル 「戦争レクイエム」

「いまだ語り尽くせない真実、
戦争の哀しみや戦争が生み出した悲惨のことを言いたい」

13951体の亡骸——阪神・淡路大震災の犠牲者の2倍以上にも及ぶ遺体が、すみだトリフォニーホールに程近い錦糸公園に、かつて仮埋葬されていた事実をご存知だろうか。

1945年(昭和20年)3月10日未明、低空飛行による爆撃機編隊325機が1665トンもの焼夷弾を投下し、東京・下町地区を未曾有の業火に包んだ東京大空襲。わずか一晩で96%を消失した旧・本所区(現在の墨田区)は、旧・深川区(現在の江東区)と共にこの空襲で最も深刻な被害を受けた地区であった。苦悶の表情を残したまま、火焰地獄の中で一瞬のうちに炭化した黒焦げの遺体の山。その亡骸を13951体も仮埋葬した錦糸公園は、都内130箇所に設けられた仮埋葬所の中で最大級のものとなってしまったのである。だが、犠牲者の数はこれに止まらない。東京大空襲による死者の数は推定10万人。短時間の戦略爆撃死亡者としては、広島原爆投下に次ぐ数字であり、長崎原爆犠牲者数をも上回る。そうして、これだけの尊い命を奪った東京大空襲とは詰まるところ、戦争という人間の所業によってもたらされた“人災”に他ならない。

東京、ドレスデン、重慶……そして1940年11月14日に爆撃機編隊515機の来襲に見舞われたイギリス中西部のコヴェントリーもまた、空襲による悲惨な“人災”がもたらされた都市であった。空爆の無残な傷跡を、現在も曝し続けるコヴェントリー大聖堂(聖ミカエル大聖堂)。その記憶を永遠に語り継がんと、隣接された新大聖堂の献堂式(1962年)のために、ブリテンは《戦争レクイエム》を作曲した。ラテン語による通常の典礼文と共に、戦争詩人ヴィルフレッド・オーウエンの反戦詩を歌詞に用いたブリテンの意図は明瞭である。第6曲(リベラ・メ)の歌詞にあるように「いまだ語り尽くせない真実、戦争の哀しみや戦争が生み出した悲惨のことを言いたい」のだ。大戦中、良心的兵役拒否を頑なに貫いたブリテンの反戦主義は、この《戦争レクイエム》において頂点に達する。「私こそ、君を殺した敵なのだ、友よ」——。戦争という“人災”の被害者も人間なら、その加害者もまた人間なのである。

だからこそ、大空襲の犠牲者の遺骨が奉安された東京都慰霊堂を有する墨田の地で、かつて都内最大の仮埋葬所となった錦糸公園に近いすみだトリフォニーホールで、《戦争レクイエム》が演奏されることは、きわめて大きな意義を持つ。東京大空襲の記憶と平和への切実なる願いを現在に伝えるべく、すみだトリフォニーホールと新日本フィルハーモニー交響楽団はこれまでに「平和祈念コンサート」を幾度となく演奏してきた。そうして、1997年のすみだトリフォニーホール開館記念コンサートの一環として演奏されたのが、ブリテンと親交の深かった故ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ指揮の《戦争レクイエム》だったのである。そのロストロポーヴィチが亡くなったいま、今度は“戦争を知らない”世代に属する音楽監督クリスチャン・アルミンクが、再び墨田の地で《戦争レクイエム》を響かせようとしている。作品の規模、編成の大きさを演奏困難とされるこの曲を、敢えてとりあげる理由はただひとつ——戦争という“人災”を、二度と繰り返してはならないから。

前島秀国(まえじま ひでくに/サウンド&ヴィジュアル・ライター)



クリスティアン・アルミンク(新日本フィルハーモニー交響楽団・音楽監督)



ジェラルディン・マクグリーヴィー(ソプラノ)



ロバート・マーレイ(テノール)



石野繁生(バリトン)

●入場料[全席指定]: S ¥9,000 A ¥7,000 B ¥5,000

(トリフォニークラブ会員・墨田区在住在勤在学は特別割引有、同時入会申込可)

●ご予約・お問合せ ※団体料金の設定もごさいます。詳しくはお問い合わせ下さい。

トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212

●前売り: 新日本フィル・チケットボックス 03-5610-3815

チケットぴあ 0570-02-9990

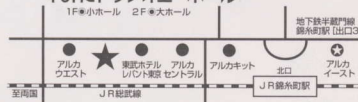
e+ (イープラス) <http://eplus.jp>

東京文化会館チケットサービス 03-5815-5452

※都合により公演内容の一部が変更となる場合がございます。※未就学児のご入場はご遠慮下さい。

■主催・企画: すみだトリフォニーホール
■協力: 新日本フィルハーモニー交響楽団

すみだトリフォニーホール



平成19年度文化庁芸術拠点形成事業

<http://www.triphony.com>

すみだトリフォニーホール

★JR総武線「錦糸町駅」北口★地下鉄半蔵門線「錦糸町駅」出口3——徒歩約5分

1997年11月7日
すみだトリフォニーホール
開館記念コンサートでの
「戦争レクイエム」
(新日本フィルハーモニー交響楽団
第255回定期演奏会)



故ロストロポーヴィチ氏と新日本フィルによる演奏。
同氏はブリテンと親交があり、
チェロ作品は全て同氏に捧げられている。
[写真中央: ロストロポーヴィチ氏]